

「第 23 回修習技術者
研修セミナー」報告書

修習技術者支援実行委員会

委員補佐 笠松 功(建設)

委員補佐 後藤 充弘(電気電子)

1. セミナー概要

日 時 平成 22 年 11 月 13 日(土)

13:30～14 日(日) 17:00

主 催 社団法人日本技術士会

修習技術者支援実行委員会

会 場 大橋会館

2. セミナーの内容

11 月 13 日(土) 1 日目

1 挨拶 修習技術者支援実行委員会 委員長	13:30～13:40 小林 進氏
2 オリエンテーション 修習技術者支援実行委員会 委員	13:40～13:50 中嶋 幸宏氏
3 講演 『技術士が変える社会 - 食品知識 の普及活動を事例として-』 横山技術士事務所所長	13:50～14:50 横山 勉氏
4 事例発表 修習技術者支援実行委員会 委員 修習技術者支援実行委員会 委員補佐	15:10～15:40 原 洋介氏 榊 勲氏
5 グループ討議(Part I)	15:40～17:20
6 情報交流会	17:30～19:30
7 ナイトミーティング	19:30～

11 月 14 日(日) 2 日目

1 グループ討議(Part II-1)	9:30～11:10
2 アドバイス・タイム 修習技術者支援実行委員会 委員 修習技術者支援実行委員会 委員	11:10～11:30 永野 澄氏 渡邊 喜夫氏
3 グループ討議(Part II-2)	11:30～15:00
4 発表および質疑	15:15～16:30
5 講評 修習技術者支援実行委員会 顧問	16:30～16:45 神下 栄氏
6 修了式 修習技術者支援実行委員会 委員長	16:45～17:00 小林 進氏

【1 挨拶】

修習技術者支援実行委員会委員長の小林進氏より、年間の研修会における当セ

ミナーの位置づけ・目的・心構えが説明された。



写真 1：挨拶

【2 オリエンテーション】

修習技術者支援実行委員会委員の中嶋氏より、グループ討議の課題および、進行におけるキーポイント・注意事項が説明された。また、各グループのコーディネーターが紹介された。

グループ 1: 榊 勲氏(原子力・放射線部門)

グループ 2: 平塚 由香里氏(電気電子部門)

グループ 3: 中村 聡氏(建設部門)

グループ 4: 高橋 裕二氏(農業部門)



写真 2：オリエンテーション

【3 講演】

横山技術士事務所所長の横山勉氏(農業部門技術士)から、当セミナーのグループ討議に参考となる話題で講演が行われた。

横山氏は、定年退職後に技術士事務所を設立し、講演・執筆活動等を通じて行っている、『食品知識』の普及活動を例として挙げた。当講演では、「農薬」・「遺伝子組換え作物」・「サプリメント」・「BSE」・「食品添加物」・「麹菌」等を事例として、『食品知識』の社会的

立場・環境を示し、それらに対する横山氏の技術者としての取り組みを紹介した。

そして、国際的な流れを十分に掴み、自分にかかわる分野で発言して人脈を形成し、幅広い知識・情報を持った技術者として社会に貢献することの重要性を説いた。



写真 3：横山勉氏の講演

取得後は、社会に貢献する技術士であるため、単に技術士の資格を掲げるだけではなく、表現能力の向上及び自己研鑽に努めているという。

最後に原氏から参加者に対し、各種セミナー及び研修会への参加が、技術士取得に大きく役立ったことを表した。当セミナーから、多くのことを吸収出来る様にとの応援メッセージが出された。



写真 4：原洋介氏の事例発表

【4 事例発表】

事例発表として、近年に技術士を所得した、修習技術者支援実行委員会委員の原洋介氏(建設部門技術士)及び同委員会委員補佐の榊勲氏(原子力・放射線部門技術士)の両 2 名より、修習技術者から技術士取得への経緯に加え、取得後の技術士としての活動が発表された。

◆ 原洋介氏の事例発表について

発表内容は、原氏の入社当時の仕事に対する意識が、就職して現実を知ることにより変化し、技術士取得を目指すまでの道則と取得後の技術士としての心構えであった。

原氏は就職することにより、自身で知識を身に付けることの重要性を感じた。

そして、仕事だけではなく、大学で研究生として基礎から再学習に励み、技術士を目指すようになった。

一次試験合格後は、勤務する会社内で技術士を持つ社員が他にいない中、修習技術者支援実行委員会開催の研修会へ積極的に参加した。参加することにより、様々な人との人脈を形成するだけではなく、仕事・技術士に対する意識が変化し、二次試験に一回で合格することへつながった。

◆ 榊勲氏の事例発表について

発表内容は、数少ない原子力・放射線部門の技術士として、修習技術者時代から行ってきた自己研鑽・業務を通じた能力向上から、社会に貢献する技術者として必要な行動であった。

榊氏は社会的に厳しい環境に取り巻かれる原子力にかかわる技術者として、社会の原子力に関する認識・求めていることを知るため、修習技術者支援実行委員会で活動を行い、技術者としての人脈・視点を広げていった。また、原子力・放射線部会では役員として部会運営に参加し、更なる自己研鑽を行った。

最後に参加者へ対して自己の経験から、成功に必要な必要条件(経験・直観・気合＋コミュニケーション能力)・十分条件(自己研鑽)・自己研鑽を通じたブラッシュアップの必要性・コンプライアンス(社会に貢献する技術者であるために)が、技術者として持つべき心構えとして示された。



写真 5：榊氏の事例発表

【5 グループ討議 Part I】

各グループ共に自己紹介から始まった。自己紹介では、技術士取得の動機や自身の仕事に対する技術者としての立場からの考えを話していた。

そして、討議課題の課題 2 である「対象となる社会を定める」の社会を定めるため、各グループ共にキーワードを上げながら討議を進めた。

討議の途中、円滑に討議を進めるため、各グループのコーディネーターが、適宜助言を行った。



写真 6：グループ討議 Part I

【6 情報交流会】

夕食を兼ねた情報交流会が、参加者・講師・運営側を乗り越え、全参加者が混じり合い、活発で明るい雰囲気の中で行われた。

また、各グループからの代表者によるスピーチも行われた。



写真 7：情報交流会

【7 ナイトミーティング】

情報交流会終了後、セミナー実施会議室において、情報交流会よりも自由な形で行われた。いくつかのグループに分かれ、仕事・時事問題・技術士二次試験に関すること等、多岐にわたる内容での談笑となった。



写真 8：ナイトミーティング

【8 グループ討議Ⅱ - 1】

定刻前より活発な討議を始めるグループもあった。

グループの特徴としては、G1：早い段階から PPT 内容を印刷していた。G2：模造紙や付箋の活用が目立った。G3：PPT の作りこみが早い。G4：付箋をホワイトボードへ貼る手法をとっていた。

ほとんどのグループが常にボード上に簡単な時間割りを目に付くようにして、タイムマネジメントに注意を払っていることがわかる。

10:40 頃に休憩をとるグループが目立った。

【9 アドバイスタイム】

永野委員：技術士法第 1 条や技術士会のプロフェッション宣言を参照して技術士への期待や行動原則などについて語られた。

渡邊委員：ご自身の業務経験や井深大氏と本田宗一郎氏の発言の紹介、はたまた坂本龍馬ならこう言うのではないかという話題をご提供いただいた。



写真 9：永野氏と渡邊氏

【10 グループ討議Ⅱ - 2】

早くに昼食をとるグループもあり、12 時台では大方昼食を済ませていた。

13:30 頃、PPT のまとめに入るグループが目立ち始めて 14:00 頃ではほとんどのグループが PPT のまとめ作業に進んでいるようであった。

14:45 頃ではどのグループも慌てている様子は無かったことから、タイムマネジメントで大きく失敗したグループは無いようであった。

資料提出直前では G4 などは発表練習をしたりしていたが、G2 は整理にややもたつくなどあった。

【11 発表】

全体説明はグループそれぞれの発表担当者が行い、個人を特徴づける部分を本人が説明するスタイルが標準であった。また、G1 発表時は G4 のメンバーが主に質問することとし、以下 G2-G1、G3-G2、G4-G3 という組み合わせで発表を行った。

G1：主な発表はリーダーの加藤氏。ニッチとされる社会を対象とし、そのステークホルダーの認識ということがらがテーマとなった。その社会に存在するステークホルダーを認識・活用した技術や製品開発を行うことにより、QOL の向上や資源有効活用を通じた貢献に着目した。

G2：チーム名を「小結」とし、発表担当は八木氏であった。共通項として「インターネット」を抽出して課題にあたった。PDCA サイクルの活用への着目が特徴的であった。

G3：リーダーは高橋氏、発表担当は今村氏、最も役割分担を徹底していたようであり、発表もグループとして導き出した内容を整然とさせたものであった。技術者を中心に置いた図化から対象の定義づけを検討し、技術者の貢献していない社会に着目した。

G4：チーム名を「モニタリンググループ」とし、主な発表は川村氏であった。また、「持続可能社会の実現」というサブタイトルを付加した。各人の社会活動状況の図を示し、その後「社会貢献の軸マップ」を説明するなど図化が特徴的な発表であった。

全体質疑としては、まず、八木氏からの発表資料を欲しい旨の要望があり、資料はコーディネーターのメッセージを付して受講者へメールすることとなった。その他に中嶋氏からのグループの進め方に関する問いとそのやりとりがあった。



写真 10：発表



写真 11：コーディネーター

次に各コーディネーターが手短かにコメントを述べられた。榊氏：困難だったが、能力アップになったのでは。平塚氏：若手で少人数の個性を活かした。中村氏：あえて各自の苦手を役割分担とした。高橋氏：新鮮な人が後半に戦力となるいい展開となった。

【12 神下顧問による講評】

各グループの特徴を長短含めて手短かに指摘された。次に全般的なことに言及され、技術士試験に求められているものは技術士の方向性でもあるとされた。社会との関りを頭に入れて業務に臨んで欲しいとことや付箋の使い方など技術者共通のテクニックを持ち帰って欲しい旨を話された。



写真 12：神下顧問

【13 小林委員長による修了証授与】

受講者に対して、今回得たものを大切にしたい旨を語られた。また受講者の先端研での発表を期待して、各グループの代表に修了証を渡して閉会となる。



写真 13：修了証授与

以上